

分科会 5

活動状況報告と意見交換

「資源循環型地域社会を実現する会」

<CS分科会>

新居浜市SDGs推進プラットフォーム

2024年 11月8日

【分科会の名称】

資源循環型地域社会を実現する会

<CS 分科会>

【提案会員】 新居浜市生涯学習センター

生涯学習センターSDGs 未来の会

【目的】

持続可能な地域社会を構築するために
“資源循環型社会システム”の実現を目指す

【分科会の活動】

1. 食品廃棄物の削減・再生利用

～社会システムの変革～

- ①学校給食センターの食品廃棄物
- ②食品製造会社の食品廃棄物
- ③地域の事業系食品廃棄物

2. 「もったいないクラブ」

～行動変容のための草の根運動～

- ①日常生活のなかのSDG s
- ②小・中学校、保育園などのSDG s

にはまSDGsプラットフォーム／分科会の活動

『資源循環型地域社会を実現する会』

「生涯学習センターSDGs 未来の会」



1. 食品廃棄物（食品ロスなど）の削減と再生利用

～地域の社会システムの変革～

- ①学校給食センターの食品廃棄物
- ②食品製造会社の食品廃棄物
- ③地域全体の事業系食品廃棄物

2. 「もったいないクラブ」

～1人ひとりの行動変容～

- ①公民館、公共施設等で参加者が「もったいない」話し合う
日常生活の「もったいない」を見直してSDGs
- ②小・中学校、保育園などのSDGs活動を提案・お手伝い
・日常の繰り返し ・成果が見える ・自発的な活動
・負担が比較的少ない ・地域の参加

【活動報告 1】

<テーマ1> 食品廃棄物の削減と再生利用

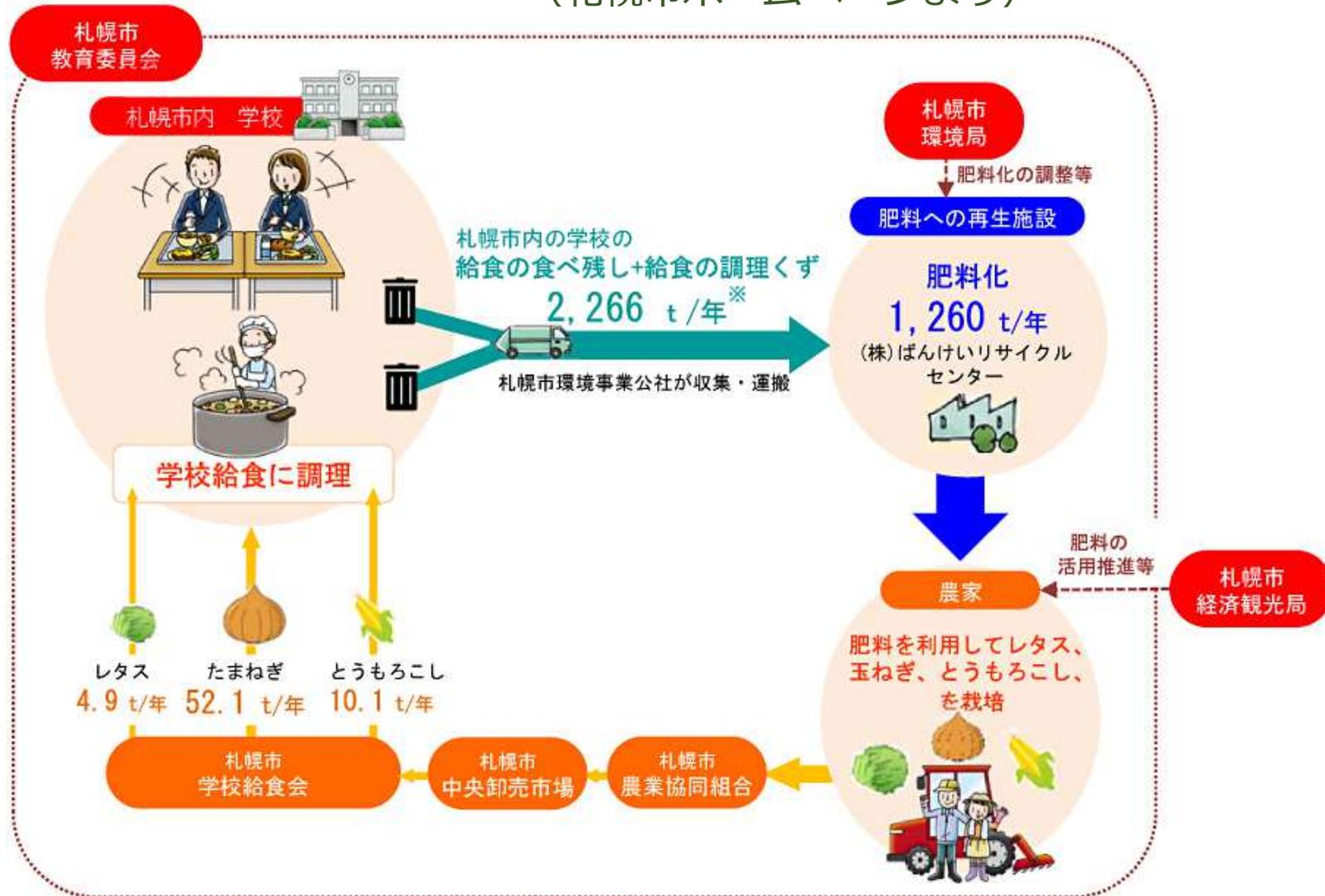
①学校給食センター食品廃棄物の再生利用

堆肥化による再生利用を提案

⇒9月24日に新居浜市関係部署に説明

札幌市の学校給食の資源循環

(札幌市ホームページより)



【活動報告 2】

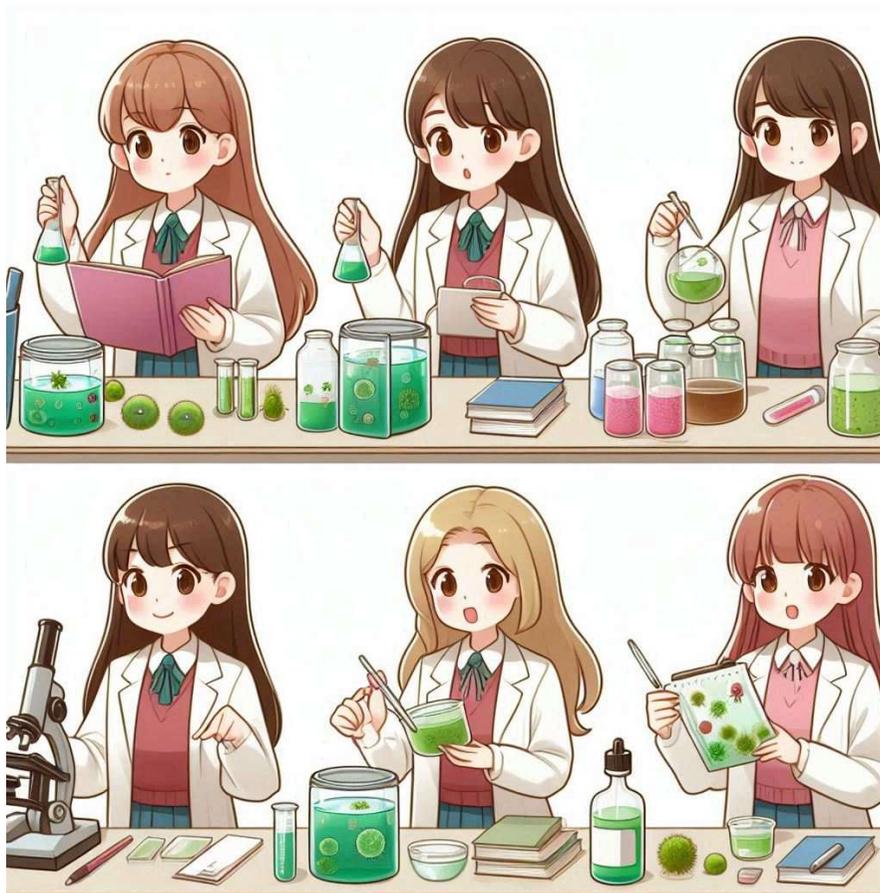
<テーマ1> 食品廃棄物の削減と再生利用

②食品製造会社の廃棄物再生利用

現在、新居浜高専／喜多研究室で微生物を培養中

有用な微生物が見つければ

⇒食品残渣のアップサイクルに取り組む



生成AI (Copilot)によるイラスト

<テーマ1> 食品廃棄物の削減と再生利用

③事業系食品廃棄物（地域）の再生利用

これからの取組みについて

⇒本日、幹事会との意見交換で

ご意見をいただきたいテーマ

【活動報告 3】

<テーマ2> 「もったいないクラブ」の活動

◆ 日常の行動変容を促す

- ・ 第1回「もったいないクラブ」開催

今年2,3,5月に 9回 開催 参加者は延べ140人

- ・ **第2回「もったいないクラブ」 11月に予定**

テーマ毎に3回開催 場所：生涯学習センター

- ・ **住友化学OB会に「布ぞうり」出展+活動PR**

10月2～7日 あかがねミュージアム 延べ430人来場

◆ 学校等でのSDGs活動（お手伝い）

エコキャップ収集：プラスチックリサイクル+ワクチン寄贈

回収拠点：市内の学校、公民館など10カ所

新居浜市SDGsプラットフォーム活動

『もったいないクラブ』のご案内

”SDGsはよく聞くけど 何からはじめたらいいの”
そのヒントは身近な「もったいない」の中にあります
さあ 無理なく楽しく SDGsと一緒に始めましょう！
テーマは独立しています 1回だけの参加も大歓迎です



	日程	テーマ/講師
第1回	11月13日(水)	家庭のSDGs～私たちの取組み 新居浜友の会
第2回	11月22日(金)	家庭ごみの分別(資源ごみを中心に) 新居浜市廃棄物対策課
第3回	11月27日(水)	うちエコのすすめ(電気、水道など) 新居浜市カーボンニュートラル推進室

時間 13時30分 ~ 15時

会場 新居浜市生涯学習センター 第1研修室
新居浜市繁本町8-65 新居浜市民文化センター本館2階



社友会に出展



エコキャップ回収箱 (神郷幼稚園)



エコキャップ回収箱 (神郷公民館)



【幹事会との意見交換】

<テーマ1> 食品廃棄物の削減・再生利用のうち

③地域の事業系食品廃棄物削減を

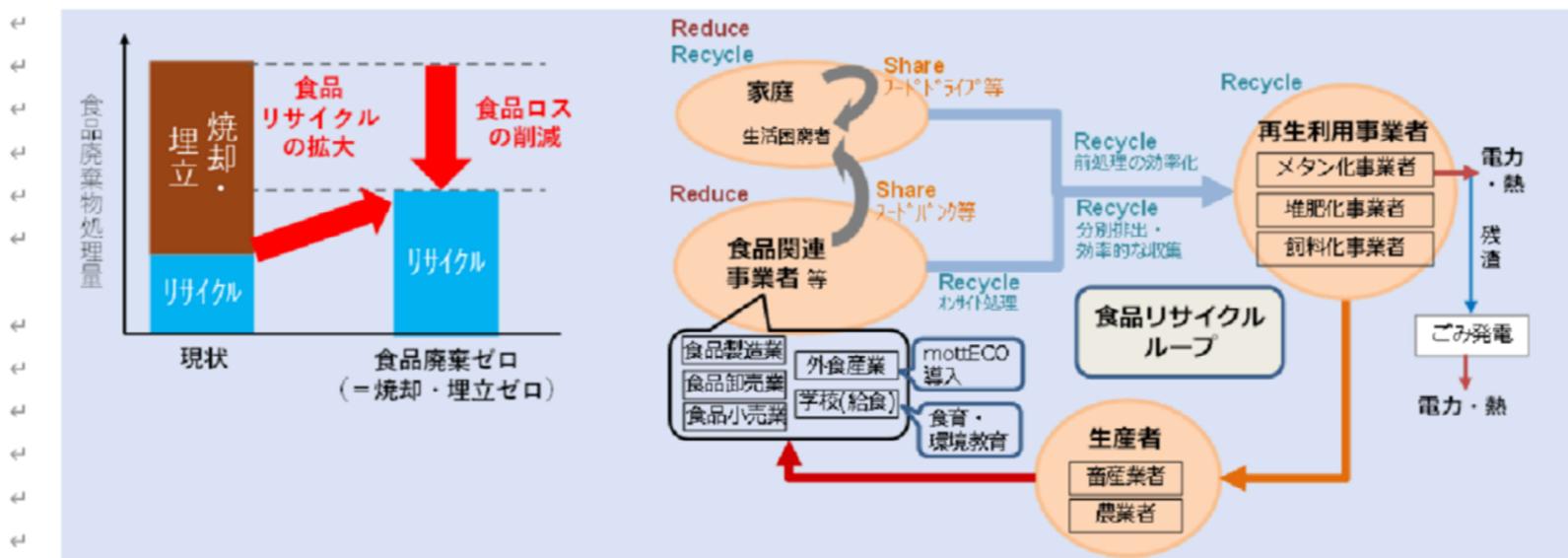
実現するための進め方について

- 地域全体の事業系食品廃棄物削減を推進するには
関連する事業者や行政の参加が必要
- そのきっかけとして、環境省が毎年3月に公募する
「食品廃棄物ゼロエリア創出モデル事業」を利用して
事例調査や事業化の検討を始めることが出来ないか？
- また行政や事業者による研究会を立上げて、そこで
検討する進め方は？

(参考) 食品廃棄ゼロエリア

- 国と地方が協働・共創して2050年までのカーボンニュートラルを実現するため、特に地域の取組と国民のライフスタイルに密接に関わる分野を中心に、国民・生活者目線での実現に向けたロードマップ、及び、それを実現するための国と地方による具体的な方策について議論する場として「国・地方脱炭素実現会議」を開催。令和3年6月9日に「地域脱炭素ロードマップ」を決定。↓
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/datsutanso/pdf/20210609_chiiki_roadmap_gaiyou.pdf
- 「重点対策⑥ 資源循環の高度化を通じた循環経済への移行」として食品廃棄ゼロエリアの創出を位置づけ。
 - ◇ 飲食店における食べ残しの持ち帰り (mottECO) やフードドライブ、災害用備蓄食品の寄附、事業者による商慣習の見直しなどの食品ロス削減対策及び食品循環資源のリサイクルにより食品廃棄ゼロを目指す先行エリアを創出する。
- 食品廃棄ゼロの達成について、具体的には、食品ロス削減対策及び食品循環資源のリサイクルにより食品廃棄ゼロ (= 焼却・埋立ゼロ) を目指すことを想定する。

食品廃棄ゼロの達成イメージ



環境省 令和6年度 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等公募要領より抜粋

「食品廃棄物のリサイクルによるゼロエリア創出」

＜バイオガス発電の事例＞

地域内の食品廃棄物



微生物の発酵によりメタンガス化



メタンガスによる発電



電力固定買取制度を利用（35円/Kw）

or 地域内で使用

(株) 東北バイオフードリサイクル

仙台市 2022年2月稼働 40トンの食品廃棄物を処理
微生物により分解してメタンガス→発電 (1,500世帯分)
年間3千トンのCO2削減



(会社ホームページより)

(株) コベック

神戸市 2024年6月稼働
60トンの食品廃棄物を処理



「資源循環型地域社会の実現」

社会システムの変革と個人の行動変容が必要

多くの皆さまのご参加・ご協力をお願い致します

« 一人の百歩 より 百人の一步 »

ご清聴ありがとうございました